様式5

令和 5 年 2 月 13 日

令和4年度北本市立中丸東小学校 自己評価及び学校運営協議会評価書（まとめ）

			自己評価 ◆「C」評価のあった「課題」への対策 〇100ではあるが改善に向けて		外部評価		
評価項目	No.	観点	A＋B／全体（%）	自己評価についての説明及び来年度に向けての改善策 （×課題としての意見）	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ	学校の取組に関する評価と今後の改善点等
①組織運営	1	自校は、学校教育目標の具現化に向けて、教育課程の編成、指導計画の作成等を工夫している。	100 A:20 B:80	〇教育計画・指導計画を学校全体として再検討する時期。学校課題研究も「目標」を絞って行う。（R4は、「体育」と「小中連携（ICT）」との2本で、どうしても偏りが見られた。	A:9	A:8 B:1	・年4回程度の全体会議開催が必要であると思います。 ・働き方改革に基づく教職員の負担軽減、行事の見直しは、一律にならないと思いますが、しっかりと教育委員会と連携し、取り組んでください。 ・学校の組織運営については、とても頑張っているようにお見受けします。 ・1月23日読売新聞に「教員残業代アップ検討」の特集が出ていました。50年前制定の「教員給与特別措置法」のままで時代が変わった現在も働いている教職員の皆様には、頭が下がります。しかしながら、働き方改革で、子供が置き去りになるのも可哀そうですし、難しい問題です。 ・管理職のリーダーシップのもとに、課題解決に向け着実に取り組まれていると思います。 ・今後もコミュニケーションを密に、何事にもオール中丸東で取り組んで行ってください。 ・№2、3、4の自己評価でCを評価した先生が7％（1人）いますが、小さな学校のために先生の負担が多く、やろうとしても時間がなく難しい状況なのかと思います。このような中でも改善に向けて取り組んでおり、今後も大いに期待しています。 ①体育の授業研究会では先生方が一丸となって、研究に取り組んでいる様子がよく分かりました。 ①ICT研究は来年度が本発表ということで、3校で協力して進めていきたいと思います。 ①「課題研究」は素晴らしい評価を耳にしました。担当の教員が良く研究し、努力の成果が見られている。 ①目標達成に向けて、情報を共有し、努力している。
	2	教職員は、PDCAサイクルのもと学級・学年経営や教科指導、校務分掌に工夫・改善しながらあたっている。	93 A:27 B:66 C: 7	×全体的に仕事量が増えており、工夫する余裕がない。 ×小さな学校のため「担任任せ」の部分が大きい。 ◆行事の際には、反省を取り、行事によって月に1度または学期に1度位、行事の反省をもとに「職員集会」などの機会を用いて改善点を話し合う。 ◆校外学習については、今年度3月に全職員で検討し、4月の職員会議資料として次年度に引き継ぐ。（一覧表の提示） ◆3月に「行事検討委員会」を設け、行事の見直し・方向性の確認を行う。	A:6 B:3	A:7 B:1 C:1	②小さい学校ならでは良さを生かした取組ができていると思います。 ②小さな学校だからこそ仕事のやりがいや成果が良く見え、職員たちの話し合いの場が作れて確実に前に進める。 ②PDCAサイクルは計画から改善まで時間がかかるといわれているので、スピード感をもって対応する。 ②教員が少なく、余力という意味で難しいだと思う。 ②教職員の負担過重は、巷でいわれているところですが、各担当者の業務内容をある程度切り分け、それを職員全体で共有し、業務移譲（委譲）可能なものがあるか検討してみてはどうでしょうか。また、上記検討において、省略、簡略化可能な業務の存否の検討もしてみてはどうでしょうか。特定の人だけに負担が偏り、孤立化を招くことが、大きな人材損失につながる気がしますし、逆につながり、共有化はパワーアップになると思います。（校内だけでなく、校外間同士でも）
	3	自校は、事故やトラブル等に対してのマニュアルを作成・掲示・活用し、組織的に、かつ迅速に対応している。	93 A:30 B:63 C: 7	◆現行のマニュアルを改訂したものを、1冊にまとめ（すでに素案は作成済）、4月に教職員に配布し、周知、共通理解を図る。	A:6 B:3	A:7 B:2	③事故がなく、トラブルも少なく、地域の方々職員に感謝。 ③事故やトラブルは予測できず、発生するので、対応を事前に児童生徒に周知する。 ③マニュアルは実践されないと意味をなさないので、作成・改定がスタートであることを意識して、活用されることを期待しています。 ③作ったマニュアルを生かす場がない方が良いのですが、実際に何か事故が起こった時に、誰もが使える対応マニュアルにするようにできるだけシンプルにしていきたいと本校も考えています。
	4	自校は、すべての教育活動を通じて、教職員の共通理解のもと、組織的に生徒指導にあたっている。	93 A:30 B:63 C: 7	×不登校児、保護者対応などが担任の知らないところでの対応があり、方向性が同じにならない。 ◆生徒指導の基本は担任と保護者。担任が窓口となる。生徒指導上の対応については、管理職、生徒指導主任への報告を忘れない。担任以外が対応をした場合は、担任、管理職、生徒指導主任、教育相談主任など、関係職員に必ず報告し、共通理解を図る。	A:7 B:2	A:8 C:1	④すべてをお互いに共通理解するのは難しいものです。それでも生徒指導主任を核とした組織が機能するどうかは、生徒指導主任のリーダーシップと、管理職のフォローが大きいと常に思っています。 ④不登校や保健室待機児童が少なからず増加傾向らしい。保護者
②基礎学力の徹底	5	児童生徒は、授業中、落ち着いて、学習内容を理解しようとする姿勢が見られる。	100 A:15 B:85	〇現状はとても良い状態であり、教員の日々の指導の成果だと考える。	A:7 B:2	A:7 B:2	⑤児童も、話す人の目を見て学習している様子が見られて先生方の指導の成果が出ている感じがした。 ⑤児童も授業に集中しているように見受けられ、大変良い状態である。 ⑤授業を参観させていただき、自己評価の通り、大変落ち着いた児童の取組が見られました。
	6	教員は、学力の向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて日々の授業改善に努めている。	100 A:46 B:54	×学力の分析をする時間があまりとれていない。（教務主任に任せきりになっている） 〇学力の「二極化」は全国的な問題。家庭学習の習慣化への指導、ICTを活用した学習を計画する。	A:8 B:1	A:6 B:3	⑥教務主任がリーダーシップを取りながら、他の教職員が組織的に動ける体制作りはとても難しいものと思います。その学校に合ったやり方を見つけて、取り組んでいってください。 ⑥学力向上に向き合う事ができているのか？ ⑥教務主任と各担任との意見交換期間を設定（ある程度の期間ごとに）し、学力に関する把握、改善方法について、簡易でも良いからミーティングをするなどしてはどうか。
	7	基礎学力の定着や授業規律の徹底など、教職員の共通理解のもと学習指導にあたっている。	100 A: 0 B:100	**※A＋Bは100%だが、Aが0%、Bが100%＝課題が無いというわけではない。** ×学年によってバラツキがみられる 〇板書や「授業中の約束」について、再確認する。 （中丸東スタンダード）	A:6 B:3	A:6 B:3	⑦Bは概ね良い状態であると思います。厳しい評価になりがちなのは、先生方の自己に対する厳しい見方ということもできるかと思います。もちろんそこに満足してしまえば成長はありませんが。 ⑦職員同士が話し合いの場を持ち、共通理解をはかってほしい。 ⑦読書量が少ないことは気になります。家庭生活（TV.ゲーム）も大きな影響があると思われ、保護者も巻き込み、ゲーム依存の問題などを考える必要を感じます。（大きな問題になると思いますが）
	8	教職員は、児童生徒に家庭学習を定着させるために、家庭に積極的に働きかけるなど工夫している。	100 A:43 B:57	※保護者の意見を見ると、温度差が見られる。 具体的な、可視化できる取組を家庭と連携して行うことが求められる。 〇タブレットの復習ソフトの活用を進めたい。 〇自主学習の取組をもう少し検討する（量、質（何をさせることが有効なのか、必要性の確認）	A:9	A:6 B:3	⑧家庭学習は、教員の準備よりも家庭の見届けの方が重要と考えます。 ⑧学年の違いはあるが、家庭学習の量は大丈夫なのか？多ければ家庭から苦情も出るが・・・質をとるなら別だが、個々の自主性に期待する。 ・ICTの更なる活用取り組みが図られるよう期待したい。 ・この項目では、A評価をつけた教職員が少ないのは申し訳ありませんが「自信がないのか？」と考えてしまいました。改善に向けた取り組みも、消極的に感じられました。 ・基礎学力を徹底させることは、児童個々の状況や家庭環境にも影響されるため困難なことと思います。 ご苦労ですが、一人ひとりの能力や個性に応じたご指導を引き続きお願いします。
③規律ある態度の育成	9	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつができる。 **※R3 A＋B＝20%**	**71** A:14 B:57 **C:29**	◆小さい声でも会釈でもいいので、進んで挨拶をすることを重点に指導する。（よくできている児童に対して、認め、褒める指導を忘れない。） ※コロナ禍で「声を出してのあいさつ」を制限してきた。→少しずつ、改善が見られる。	A:6 B:3	A:4 B:5	⑨R3は20%でびっくりしたが一番の課題「あいさつ」、まずは教職員が手本になり実行すること。高学年になると、「あいさつ」ができなくなる傾向である。コロナ渦で中止にしたあいさつ運動」の再開、早出手当など付かないが？職員も順番制で指導する。 ⑨あいさつは社会生活の一番の基本なので、低学年からできるように身につき、進んで挨拶できるようになるといい。 ⑨家庭生活の影響も大きいと思う。（大人社会でも）あいさつに無関心な方が結構見受けられます。また、ほめる指導はとても良いと思いますが、どうして挨拶が必要なのか、挨拶の大切さを、かみ砕いて説明（良好な人間関係を築く効果や発声による肉体的健康効果なども含めて）すると納得→行動も期待できるのではないでしょうか。 ⑨下校見守り時、コロナ渦で声出し制限はあるが、最近は緩和され、よくできている。マスクが外れれば、自然に声も出てくると思います。 ⑨児童はずいぶんよくなっています。特に、1年生が元気いいですね。6年間続けばよいのですけど。 ⑨挨拶の励行は、昨年度と比べて大きく改善されています。 　挨拶は、子供たちが社会性を身に付けていくうえでの基本と考えますので、コロナ過で制約があるなかですが、出来得る教育をお願いします。 ⑨今まで大丈夫かなと思っていた児童が、中学校に上がってきてても元気な挨拶ができるようになることがあります。中学校で特別な指導をしていなくてもです。子供自身の成長ですね。もちろん地道に指導を続けていくことは大切と考えます。
	10	児童生徒は、各学年の発達段階に応じた場に応じた正しい言葉遣いができる。	100 A: 7 B:93	×嫌な言葉を使う児童はいる。 〇今後も、気が付いたときに、その都度、指導する姿勢を維持する。 〇児童集会での発表や、クラスでの「チクチク言葉、ふわふわ言葉」など道徳でも取り入れる。	A:6 B:3	A:7 B:2	⑩低学年はともかく、高学年になればTPOに応じた言葉遣いを使えるようになりたいものですね。中学校進学という通過儀礼を経るとできるようになるように。それだけ中学校進学って重いものなんですね。 ⑩中学年から言葉遣いは悪くなるが、感じたらその場で指導。 ⑩嫌いな言葉を使う児童がいたら、その都度注意をし、指導する。 ⑩「子供が大人に対して使う言葉遣い」のできないのは、男児（低学年）に多いですね。
	11	児童生徒は、お互いのよさや努力等を認め合って学校生活を送っている。	100 A:43 B:57	〇縦わり班活動 や 運動タイムなどの活動を通して、児童の交流が進んでいる。小学生にとって、休み時間などの遊ぶ時間の大切さがよく見える。	A:8 B:1	A:8 B:1	⑪単学級であるため、別の学年とかかわりが出来て、上級は下級の面倒を、下級は上級の指導を受け、よい関係である。 ⑪何度か拝見した児童の様子では、他者への思いやり、心配りが随所で見られました。
	12	教職員は、すべての教育活動を通じて、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	100 A:43 B:57	〇元気な「虹っ子」の育成が行われている。 〇せいかつ目標の見直しと意識づけを図る。	A:8 B:1	A:7 B:1 C:1	⑫規範意識の育成は、小学生の段階では教員と保護者が半々くらいの役割分担が必要だと思います。保護者への啓発が必要ですね。 ⑫小さな学校のため、学年を超えて児童の観察がよくできている。 ⑫児童から「先生が〇〇ちゃんにこう言っていた。」「こう言われた。」先生が怒ったなどの話を聞くときこんなことまで教員が児童に言うんだなと思うことがある。自分の子のクラスではないので、そうなんだなと思うだけだが、保護者から不安な声はよく聞く。
④健康・体力	13	児童生徒は、体力の向上に向け、学校生活全般で運動や体づくりに意欲的に取り組んでいる。	100 A:86 B:14	〇現状の取組を点検し、さらに次年度に生かす。 （体育主任を中心に全教職員で取り組めている）	A:9	A:9	⑬段階的に朝運動の復活に期待したい。 ⑬縄跳び、逆上がりへの取り組みは素晴らしい。プールが解禁され、児童が生き生きと明るく楽しく過ごせるのは良いと思います。 ⑬運動や外遊びが大好きな児童が多いですね。教職員の評価が高いのも理解できます。 ⑬素晴らしかった体育の発表を、今後に生かして取り組んでいってください。
	14	自校は、児童生徒の健康及び安全についての意識を高めようと努力している。	100 A:67 B:33	〇保健室前の掲示物がとても良いが、保健室に行く児童しか見る機会が少ないので、掲示場所を検討する。 〇養護教諭の授業での指導はよかったので次年度も継続したい。	A:9	A:9	⑭養護教諭の授業参加が進んでいるのは素晴らしいと思います。 ⑭職員の仕事量が増えている中、下校後に子供たちを再度遊ばせて体力向上に努めていることは素晴らしい。 ・学校だよりなどを通じて、子供たちが元気に活動する姿を拝見しています。 　これからも健全な心と身体の育成をお願いします。
⑤保護者・地域・異校種間連携	15	自校の教職員は、PTA活動や地域活動等に積極的に協力している。	100 A:31 B:69	〇コロナ禍で、PTAの活動の実施が難しい現状であり、R4は除草作業などへの参加しかなかった。。 〇中丸公民館の「花いっぱい運動」などできることを少しずつ増やしていっている。	A:8 B:1	A:8 B:1	・少子化で児童数が減少しているので、大事に見守っていきたい。 ⑮PTA活動や地域行事が自粛している中で、積極的な協力はできないが、少しずつコロナ渦前に戻す計画を・・・ ⑮地域の力を学校運営に生かし、地域とともにある学校づくりを推進してください。「花いっぱい運動」「大根栽培」 ⑮この3年間確かにコロナ渦で保護者と学校の距離が離れているのは仕方がないかもしれが・・・このままだとコロナが落ちつたときに元に戻れるのでしょうか。 ⑮東中もそうですが、コロナ禍にあってPTA活動はなかなか活性化はしません。できることをできるときにやるだけですね。 ⑮中丸公民館と中丸コミュニティ委員会の共催事業である「花いっぱい運動」や「中丸公民館コミュニティまつり」に児童の絵の出展等、快くご参加いただき感謝しております。中丸公民館と中丸コミュニティ委員会ともに、学校との連携や学校への協力を常に考えています。何かありましたらよろしくお願い致します。
	16	自校は、各種たよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報提供している。	93 A:40 B:54 C: 7	◆掲載内容や学年の割り振りなどを検討していく。 学級だより、学年だよりを配布しており、保護者のニーズがどの程度あるのかを検討する。（費用（負担）対効果。） ・給食の献立表などは掲載されてきている。	A:6 B:3	A:7 B:2	⑯教職員の働き方改革、負担軽減が叫ばれる中、本当に必要な仕事とあれば潤う仕事の峻別は必要ですね。 ⑯他校から見れば、ホームページ情報が遅い、「学校だより」の配付見直しが必要だと思う。 ⑯⑰学校だより「虹っ子だより」で当自治会のパトロール隊員の紹介をしていただき、隊員は大変喜んでおりました。 ⑯コロナ過で活動が制限され、地域との関係が希薄に感じられることから、積極的な情報や魅力発信など（HP、インスタ等）が求められていると思います。
	17	自校は、保護者や地域と連携し不審者対策のパトロールや声かけ運動などの計画を立てて定期的に実施している。	100 A:36 B:64	〇現状ではコロナ禍で実施がなくなっている。地域の方のお力に感謝している。 〇登下校指導を定期的に行っている。また不審者情報などが出た場合には、パトロールを実施。	A:7 B:2	A:6 B:3	⑰これも地域に委ねて良い仕事の一つであると考えています。もちろん丸投げはできませんが。 ⑰地域の方々は、忙しい中においても登下校時間前から子供たちの安全確保のボランティア活動を欠かさずに行ています。職員も手当はつかないが教室と違う顔を見られるから当番以外でも登下校指導を増やしてほしい。 ⑰登下校パトロールに教職員のご協力に感謝します。 ⑰交通、防犯も兼ね、下校見守りを展開中。今後、他自治会も一緒に活動できればいいと思う。 ⑰一昨年は安全担当教師が朝の通学路にもこまめに来てくださいましたが、この2年は姿をみません。校長先生は来てくださりありがたいのですが・・・。
	18	自校は、異校種間（幼保小、中高等）の連携を積極的に推進している。	93 A:29 B:50 C:14 D: 7	×幼保との連携がなかなかできていない。 ×コロナ渦なので交流がない（できない）のは仕方がない。 ◆少しずつ、できることを増やして、小中連携の目的である「中1ギャップの解消」を目指す。	A:6 B:3	A:7 B:1 C:1	⑱コロナの影響を考えながらもだんだんと外部との連携は増やしていきたいものです。 ⑱「小中校の連携はしにくい」なら、どうやって行きたいのか？これも具体性に欠けます。 ⑱学校区内には幼保がないので、ここでの連携は難しく、小中との連携は強く持っていただきたい。 ⑱コロナ渦で小中連携ができなかったが、次年度からは増やしていく計画を立て、実行する。 ⑱せめて新1年生の運動会参加は叶うといい。 ⑱将来を見据え、小中交流を積極的に行う必要があると思います。
⑥学校独自の項目	19	各教職員は目指す学校像のために、目標を連鎖させ、チームワーク行動に努めている。	100 A:27 B:73	〇一部に偏りがある。 〇目指す学校像をさらに明確にしていくことが必要。（可視化する）	A:8 B:1	A:7 B:1 C:1	・落ちこぼれが不登校、非行に走る要因の一つだと思います。その為の各学年ごと対策が必要ではないか。特に1年生、4年生に力点を置いた指導が望まれます。 ・19、20、21の項目にAをつける方が少ないのが気になります。「目指す学校の明確化」を発言している方は、具体的に何を明確にしたいのでしょうか？ ・先生方の業務は多岐にわたっており、限られた時間で行うのはさぞや大変かと思います。 ・事務負担を軽減するためのICT導入など更なる取り組みを期待しています。 ⑲小さな学校ですから、職員が目指している「学校像」を明確にして保護者に伝えてほしい。 ⑲先生たちが多忙で、目指す学校像よりも学級運営でめいいっぱいなのではないか。 ⑲チームワークと言ってもすべての人が同じことはできません。それぞれの良さが一つのベクトルとなっていくように導いていきたいものです。
	20	教職員の資質と指導力が向上するよう、校内研修（学校課題研修・一般研修）を計画的に進めている。	100 A:40 B:60	〇研修主任が中心となり、計画的に進めている。しかし、教員数が少なく、負担が集中してしまうことが課題である。 ×小中連携の研究はしにくい。（子どもたちの教育のために「何」を研究するべきか。	A:8 B:1	A:7 B:2	⑳小中連携の難しさは、小学校の教職員にとって、卒業後の生徒たちがこれからどのように育っていくのかが分かりにくいことでしょうか。教職員が小中の両方を経験できると良いのでしょうが。 ⑳教職員が少ないのは仕方ないこと。それを負担に思うかの違いである。時間の使い方の工夫を・・・
	21	ICTを効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を行う授業の構築を推進している。	87 A:20 B:67 C:13	◆自尊感情を高める手立てとしてICTを活用していく。→児童に「できた！」という感覚を味わわせる。 ◆字を書く、黒板を写すなどの学習が苦手でも、タブレットを活用すればできることがある。（不登校やLDの児童の学習に活用したい） ◆★ICTのスキルについては、発達段階によってどこまで習得させればいいのかを確認するための基本的なマニュアルが必要なので作成する。	A:7 B:2	A:7 B:2	㉑「自分が認められているんだ」「自分がここにいていいんだ」ということを実感できるようにするために、どうICT機器を活用できるか、本校でもまだ迷いはありますが、協力し合って進めていきましょう。 ㉑タブレットを上手に使い、字を書くことも重要と感じる。 ㉑ICTは情報・知識の共有に焦点を当てており、人と人、人とモノの情報伝達といったコミュニケーションの側面が、より強調されます。学年ごとの基本的なマニュアルの作成を早期に期待しています。
	22	生涯にわたって運動やスポーツに親しむ児童の育成を目指した体育授業の研究を推進している。	100 A:73 B:27	〇よい授業実践は、子どもたちの「笑顔」を創るという見本だった。	A:8 B:1	A:8 B:1	㉒とても素晴らしい授業研究会でした。 ㉒運動が大好きな児童が多いので、ロング休み時間は、校庭を駆け回る事や縄跳びを見守り、笑顔を増やしてほしい。

来年度の重点目標（共通項目・学校独自項目の評価結果を踏まえて）	学校運営協議会の総評
Ⅰ 「学び」の取組への共通行動の構築 ・授業での学習規律や家庭学習（自主学習）の内容の再検討 ・ICTを活用しながら、東中学校区の研究を進め、児童の自尊感情（やればできた！いろいろな方法でできる！）を高めていく。 **Ⅱ あいさつや「他者を尊重する意識」の向上を目指した教育の推進** ・「声を出してのあいさつ」が少しずつ可能になってきている→「自ら進んであいさつができるように」、児童のあいさつを推進する取組を児童会と話し合い実施する。 **Ⅲ 教職員の負担軽減（働き方改革と平準化）** ・さらに削れるもの（削った方がよいもの）を洗い出し、1つ1つ実施する。 ・大きな校務分掌が重ならないように配置する。	・若い世代の教職員になり、現在のニーズに合った考え方で指導をしていると思います。 ・挨拶は職員の方々、自らの行動が見本となる姿を見せてやってください。地域の方々には感謝の姿勢を見せ、子供たちのお手本になってください。 ・働き方改革は、今後のテーマである「子供に負担」がかからない工夫でお願いします。 ・期間を決めて「あいさつ運動」の実施をするとよい。 ・教職員の働き方改革と、処遇見直しを通じた質の向上を述べているが、そもそも教員が不足しているのが現状です。 ・校長教頭両先生はじめ、教職員の皆様からいつも丁寧な情報提供、意見交換の場を設けていただき感謝しております。子供の成長については、学校の先生方任せではなく、保護者や地域等社会全体が連携して取り組まなければならないことを改めて実感しました。 ・近隣に高齢者施設ができ、児童は今「どんな理由で入居してくるのか？」に興味を持っています。「年を取るとできなくなることが増えて、お世話を受けながら一人よりたくさんの人と生活する楽しさがある。としよりも昔は小学生だったんだよ。」と教えましたが、入居が落ち着いたら児童が高齢者との交流ができるといいと思います。人数が少ない分、小回りの利く活動ができると思っています。 ・学校全体がとても穏やかで優しい空気に包まれているようです。先生方の普段のご苦労が実を結んでいるのではないでしょうか。 ・子供たちが元気で笑顔あふれている姿がこれからも続くように小中で協力し合っていけるように、これからもよろしくお願いいたします

北本市立中丸東小学校 学校運営協議会 委員一覧 （敬称略）	外部評価実施日
会長 小澤 修次　　委員 横山 和代 委員 丸谷 亜希子　　委員 荒井 光男 委員 井上 勝二　　委員 島崎 信一 委員 沼田 晴美　　委員 吉田 伸吾 委員 谷津 英治　　委員 原口 穣	第1回 令和 5年 1月18日（水） 第2回 令和 5年 2月13日（月）